

1 調査日 平成26年1月22日（水）

2 調査の概要

(1) 近江八幡市大中町、栗東市下戸山・安養寺地区

平成25年9月15日から16日にかけて日本列島を襲った台風18号の豪雨は、各地に被害をもたらし、浸水被害や山腹崩壊など県内農林水産業にも甚大な被害をもたらした。

本県の農林水産関係の被害は、農作物で、1,553.9ha、626,982千円、施設関係で、2,217箇所、4,041,296千円（H25.10.31現在）。森林等の被災状況では、山腹崩壊171箇所、溪流被害116箇所、被災林道218路線:667箇所、被災延長19,832mに及んだ。

現在、県内各地において、災害復旧事業等が実施されていることから、近江八幡市および栗東市の被災地区を視察し、現状や復旧の進捗状況、課題等について調査を行った。



(2) 滋賀有機ネットワーク（近江八幡市）



滋賀有機ネットワークは、JAグリーン近江の大中の湖産直連合、同安土産直連合、JA栗東有機栽培グループの3つの生産グループが協力し、食の安全、健康のための農業、環境保全型農業を目指す農業者のネットワーク組織として平成6年に設立された。同組織は、県内の生産農家約80名が野菜、果樹、米の生産を行い消費者との産直提携によって農家経営の安定と後継者の育成、生産基盤の確立と産地育成を推進している。

このことから、滋賀有機ネットワークの取り組みを視察し、農業振興対策の参考とするため調査を行った。

(3) 旧RDエンジニアリング最終処分場（栗東市）

調査内容 一次対策工事および二次対策工事について

旧RDエンジニアリング最終処分場問題については、平成 24 年度に一次対策工事（原因廃棄物等の掘削撤去、汚染水の揚水処理）が完了し、平成 25 年 1 月の二次対策工事着手に向け、昨年 12 月 20 日に契約を締結した。

このことから、一次対策工事完了後の旧RDエンジニアリング最終処分場の現状や二次対策工事の状況等について調査を行った。

